昭和44年6月7日第三種郵便物認可（毎月3回2の日）

万国のプロレタリア、被抑圧民族
団結せよ！
マルクス・レーニン・毛沢東主義の旗の下
プロレタリア世界革命を遂行せよ！
日本マルクス・レーニン主義者同盟

赤光〈しゃっこう〉

1970年
6月6日
号外
毎月2日、12日、22日発行
半年800一年1,500（含送料）
定価 1部 20円

編集人 日本マルクス・レーニン主義学同
中央委員会機関紙編集部 気賀康
発行所 レボルシオン社
東京都千代田区飯田橋2—8—4（共栄ビル）
電話（03—264）0677 振替 東京80708
関西支社 大阪市北区浮田町11
電話（06—371）8479 振替 大阪42691
九州支社 福岡県福岡市博多町1～11～6
電話 092（52）4818
東北支社 宮城県仙台市花京院2～1～35
電話 0222（25）1294

機動隊殲滅—首都制圧

6・14 6・13明治公園への全国大結集を！ 6・15（代々木公園）から10日間の死闘へ

ML旗の下、解放戦線軍団に結集せよ！

機動隊殲滅6月決戦勝利へ
身命を賭して闘いぬけ！

決戦は迫った。闘う決意をもつすべての人民は解放戦線軍団に結集せよ。六・一三明治公園、六・一四代々木公園に結集し、戦闘に突入せよ。全国反戦、全国全闘は、六月決戦を宣言し、六月一四日、六・一五、英雄的学生は国会構内に突入し、機動隊と激闘した。橋詰智子同志はその先頭で闘い敵の列に倒れた。それから一〇年、日本革命運動は、アジア革命の進展と相まって、全く新しい質を獲得した。二年間の激闘、それは、日本革命をめざす真の革命派を準備さえた。そして今、この間の全成果をあげて斬たな時代への水路を切り拓く時がきた。六月決戦を死力を尽して闘い抜き、日本革命の大道を確立しよう。六月一四日、安保に反対し、佐藤に反対する者の全ての人民は決起し、代々木公園に結集せよ。中核派は、六・一四から五月闘争を通じて六月決戦を闘う者と逃亡する者の違いがはっきりした。中核派は、六・一四から二三までカンパニアで流そうとしている。一〇年前のブント四兵だ。二年われは、それを守り抜展させることを責務なの様、中民非常体制を粉砕い。中核はこれに屈したのだ。だが、日和見主義を乗り越えて、全国反戦宣言した。わが同盟は、強固な解放戦線軍団を結成し、全人民を領導する高らに戦闘を開始せよ。一四日をカンパニアで、闘うことは、六月決戦を闘戦する。安保自動延長・日米共同声明路線をつっ走る佐藤内閣は、機動隊鉄壁解放戦線軍団は、一四日より一〇日間の死闘をやり抜く決意を固め、る。民は解放戦線軍団に結集せよ。

真紅の英雄精神を注ぎ込み
機動隊を徹底的に殲滅せよ！

全都労働者解放戦線議長 東

全国の同志諸君！ 英雄的戦士になっていき脈打っているのだ。

同志諸君！ 六月決戦まであと数日残すこの時にあたって、今更何をくどくどしく言い残す必要があるだろうか？ わが軍団は労働者階級の手に権力を戦い取らせる必勝の軍団である。革命の七〇年代勝利の水路をふさごうとする一切の反革命的陰謀を一気加勢に打ち破ること、首都を武装した人民の手で制圧すること、われわれのやるべき任務は唯それだけである。憎むべき帝国主義者との非妥協の戦いを断然と打ち抜いて来た無数の先駆同志たちの築きあげた革命の七〇年代の地平をわが必勝態とわが解放戦線軍団に向けられている。被抑圧民族のための闘争圧殺の手段がわが機関へとかりつつある。こうした情勢に怯えた革命的左翼内部の日和見主義者は既に戦線を逃亡し、十一月決戦の革命的地平をことごとく汚すことに奔走している。革命の時代には反革命の弾圧も本モノになるのであって、泥人形の様な者はほうおちざるを得ず、磨かれずに来たダイヤモンドはその真価を発揮するものだ。あの革共同中核派諸君の金箔が音をたてはがれおちる様を見よ！ われわれは、六月決戦を頬かぶりして通りすぎようとする奴等を断じて許すわけにはいかないが彼等への鉄槌は必ず人民が下すだろう。

同志諸君！ われわれはいかなる困難をも革命へ飛躍を生命かけて闘い抜いて来たML同盟とわが解放戦線は、いま、その革命的伝統に新たな武勇の一ページを加えようとしている。しかし、由断共産党とその解放軍は革命達成までに何万回も壮絶な戦闘をくり返したのであり、それに比べればわれわれは、まだ数えるほどの戦闘の経験しかもってはいないといえる。われわれは六月決戦勝利を打ち固めることにより連続的な人民の武装闘争の巨大なうねりをつくり出さねばならない。まさにそのために、いまわれわれは最低途上の遠征の紅軍兵士になりきらねばならず、立派七〇年代階級闘争勝利の礎のわこに身を犠牲にすべき時である。

同志諸君！ 六月決戦を前に破壊した反革命の銃口向けがML同盟とわが解放戦線軍団に向けられることは、この任務の達成のためなら同志諸君！ われわれは何でもやろうと心に決めた。考えても見よう、十一月決戦を勝利させた戦士たちの革命精神、右翼反革命テロルに倒れた烈士中村党己の真紅の英雄精神はどうすることによって受け継がれ、彼等の高揚すべき課題は、何をもってつぐなわれるのか？ 憎んでも余りある機動隊、一切の反革命と反革命陰謀を徹底的に打ちのめし、彼等の受けた苦痛と労働者人民の底知れぬ怨哀を数倍した形態で反動派共に味あわせることによってだ。

同志諸君！ 六月決戦を前に破壊した反革命の銃口向けがML同盟とわが解放戦線軍団に向けられることは、この任務の達成のためなら同志諸君！ われわれは何でもやろうと心に決めた。考えても見よう、十一月決戦を勝利させた戦士たちの革命精神、右翼反革命テロルに倒れた烈士中村党己の真紅の英雄精神はどうすることによって受け継がれ、彼等の高揚すべき課題は、何をもってつぐなわれるのか？ 憎んでも余りある機動隊、一切の反革命と反革命陰謀を徹底的に打ちのめし、彼等の受けた苦痛と労働者人民の底知れぬ怨哀を数倍した形態で反動派共に味あわせることによってだ。

同志諸君！ 六月決戦を前に破壊した反革命の銃口向けがML同盟とわが解放戦線軍団に向けられることは、この任務の達成のためなら同志諸君！ われわれは何でもやろうと心に決めた。考えても見よう、十一月決戦を勝利させた戦士たちの革命精神、右翼反革命テロルに倒れた烈士中村党己の真紅の英雄精神はどうすることによって受け継がれ、彼等の高揚すべき課題は、何をもってつぐなわれるのか？ 憎んでも余りある機動隊、一切の反革命と反革命陰謀を徹底的に打ちのめし、彼等の受けた苦痛と労働者人民の底知れぬ怨哀を数倍した形態で反動派共に味あわせることによってだ。

全国学生解放戦線議長代行
平田勝生

全国の革命的労働者、学生、市民諸君！

いよいよ七〇年の大闘に突入した。われわれの前に日夜くりひろげられている帝国主義者のプロレタリアート、人民に対する暴虐に大反撃を加える日が刻々と迫りつつあるのだ。ベトナム人民をその先頭としたアジア人民の闘いは、今や確実に高揚、反革命攻勢を絶壁にまで追いつめ、米帝の破滅と親衛なる同盟者—日帝をも奈落の底へと追いつめつつある。ベトナム革命闘争は熾烈な闘いの中から、インドシナ全域に拡がり、抗米救国のインドシナ統一戦線を形成せしめるまでになった。毛沢東主義に基づく人民戦争路線は、一部の反スタ主義を名乗る小児病的党派の願望を粉々に打ち砕きながら、闘うアジア人民の、帝国主義諸国人民の共通の路線として創造的に継承されている。インドシナ半島における現在の革命戦争の勝利的前進が毛沢東主義—人民戦争とは何かを決定的に示している。

主義との闘争に結集している人民なら全く認めざるを得ない。

「安保粉砕・沖縄解放—日本帝国主義打倒」をもって全アジア人民の革命闘争と大合流しようとしている、革命的日本の労働者、学生、市民諸君！ 十一月決戦を勝利として断固闘い抜いたわれわれが七〇年代を勝利・進撃・革命の年代として規定したことのまさに正しさが今現在まさまさにハッキリしている。このような情勢にあってわれわれがなすべきことともまた一点の疑もなく確認することができる。七〇年代を十一月決戦に倍する七〇年代の決戦として打ち抜くこと、まさにこれである。革マル派以下、日和見主義の徒と化した諸君が、いかに「日帝のアジア侵略（の危機）を内乱へ」などと言っても、その革命的人民をあざむく内容が右翼日和見主義として暴露されてしまった今となっては、彼等は闘う人々から嘲笑を受けるだけであろう。恒常的な闘争をそのの具体的方針として結成された反帝戦線なるものを名乗る諸君に至ってはもはや論外である。彼等は種々の思惑を革命的に断ち切って全人民のその路線として蜂起と掲げるべきである。闘う人民はその素直さを育んで認めるに違いない。

帥す限りの武器を手に取り、恐れ、政治的武装をもって六月決戦に決起せんとしている労働者、学生、市民諸君！ 自分と自分の属する階級を阻害するものから解放するには、阻害するものの本質をしっかり把握し、それに対して闘わねばならない。われわれの闘いの前に立ちふさがるものが機動隊であるならば、それを粉砕して進撃するのみである。旧左翼（？）や革命的左翼の一部さえもが日帝の政治権力の前に屈服しつつある時、われわれに課せられた任務は重い。だがこの責任こそが、六七年十・八羽田闘争以来われわれが勝ち取ってきたものの証である。革命的日本人民と日帝との間にはもはや中間物など存在する余地はない。プルジョア独裁のより一層の強化か、あるいはプロレタリア独裁のための一里塚を創り出すのか？ それが問われているのである。

全ての闘う戦士同志諸君！ 革

大結集で の死闘に起て

軍団に結集せよ

のブント以下だ。二年間の激闘の地平をもつわれ
乗り越えて、全国反戦・全国全共闘は六月決戦を
し、全人民を領導する。一四日、代々木公園から
ことは、六月決戦を敗北に導びくことにつなが
勝内閣は、機動隊鉄壁で守られている。機動隊を
めには何でもやる。このような決意が必要であ
やり抜く決意に固め、その態勢をとった。闘う人

ぎ込み、

滅せよ！

議長 東間徴

飛躍を生命がけ
10・21国際とわが
、その革命的伝
ニページを加え
しめし、中国共
は革命達成まで
闘くり返した
比べればわれわ
ほどの戦闘の経
ないといえる。
戦勝利を打ち固
綿的な人民の武
われのつくり出
まさにそのため
は長征途上の嬉
たちきられなけ
年代闘綿闘争勝
を機能にしぬき

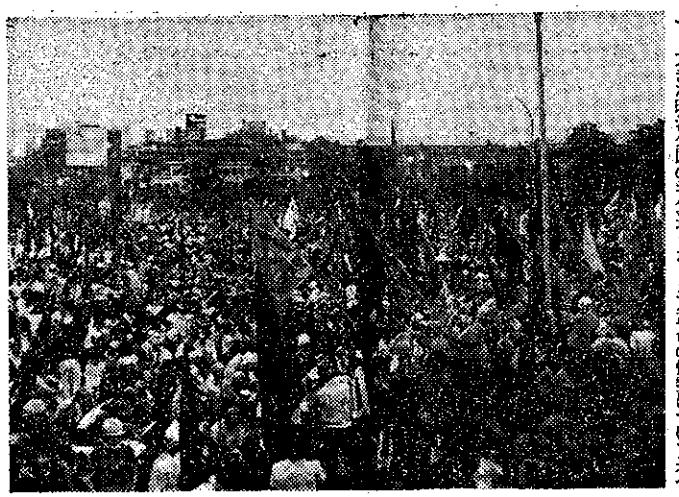
闘争」一闘争
覚と掲げるべ
人民はなどの系譜さ
遠しない。
砂手に取り、恩
をもって六月決
している労働者、
、自分と自分の
導するものから解
するものの次
し、それに対して
われわれの闘
おるものが機動
それを破壊して
る。旧左翼(?)
一部さえもが日帝
国服しつつある
誇られた伝統は
要こそが、六七
以来われわれが
ものの証である。
日帝との間には
存在する余地な
ア独裁のより一
いはプロレタリ
一思想を創り出す
問われているので
中間主義者！革

時である。
同志諸君！生命を賭けた飛躍
なくしては生きられないのが革命の
時代の鉄則であり、われわれは日
本人民の勝利を堅く信じ、日本M
L同盟に生命を進げ、マルクス・
レーニン・毛沢東主義を必勝の
武器として、会員、これ鬼神に
かえて一路六月決戦へ突き進んで
いる。われわれの勝利は間違いな
い！何ものも恐れず、必勝の軍
団にふさわしい立派な戦果をあげ
よう！
わが必勝の労働者解放戦線軍団
は全国三千万労働者の期待と信頼
に応え、機動隊殲滅！人民総武
装をかちとることを約束する。

命がわれわれの血の犠牲を必要と
するたら、喜んでわれわれの身命
を革命に賭けようではないか！
革命的同志中村克己がその燃えた
ぎる革命への情熱を死を通してわ
れわれにつきつけた時、われわれ
は革命闘争の偉大さをまざまざと
見た。戦士同志諸君！われわ
れの掲げるプロレタリア国際主義
—反帝国際主義の旗は紅々と同志
中村の血で燃えている。
人民総武装六月決戦をもってイ
ンドシナ人民の革命戦争と連帯せ
よ！六月決戦勝利をもってアジア
革命へ日本階級闘争を合流せし
めよ！安保粉砕・沖縄解放—
日帝打倒・アジア革命勝利の戦略
スローガンを高々と掲げ、七〇年
六月、日米共同声明を粉砕し、安
保破棄、佐藤内閣打倒を獲ち取ろ
う。
全国学生解放戦線軍団は、十二
月決戦で示した「強さ」を六月決
戦でいかんなく発揮するだろう。
「機動隊殲滅」——このために全
力を賭けよ！それなしに何もな
い。

5.29全国でスト決起

米帝のカンボジア反革命軍事介入粉砕・六月決戦勝利に向けた五・二九大統一行動は、東京1万3000名を先頭に、全国での大決起をかちとった。東北大から九大まで、全国の大学はストライキに突入し、米帝の反革命介入に対する大抗議行動を展開した。全国反戦、全国全共闘に結集する革命的労働者学生は、カンボジアーインドシナ人民の英雄的闘争に連帯する道は六月決戦を貫徹するところにある、という強固な意思一致をかちとった。六月決戦を担う革命的労働者学生は、中核派の逃亡を乗り越えて進撃しつつある。五・二九統一行動の高揚は、六月決戦勝利の確信を与えた。



5・29明治公園に結集した労学1万3000

東京、明治公園に 一万三千の労学結集

明大先頭にストライキで決起

五・二九全関西統一行動は、東京明治公園に一万三〇〇〇の労働者・学生を結集してかち とられた。
四時、全国全共闘の集会が開始される頃には、日大、ストライキで決起した明大などの全共闘部隊で、大きな明治公園の半分近くが埋められた。解放戦線軍団は、集会を六月決戦への決起集会としてかちとるため、終始規律ある行動をとり、注目を集めた。
四時過ぎ、全国全共闘の集会が始まった。竜大全闘連を代表して市原君が発言した。市原君は、アジア革命の情勢について述べ、六月決戦を闘い抜いて、明治公園に到着した。労働者解放戦線は、労学集会を領導すべく、毛主席語録を唱和して決意を固めた。
労学総決起集会は六時過ぎに始まった。各党派の学生代表が次々に発言に立った。全国学生解放戦線を代表して、平田君は、六月決戦の意義を述べ、この重大な六月決戦から逃亡している中核派・ブントを厳しく批判した。平田君は、「解放戦線は六月決戦を責任をもって領導し抜く。私はその最先頭で闘う」と決意を述べて発言を終んだ。
集会後、日比谷公園までデモが行なわれた。解放戦線軍団は、途中、青山通りで、逆一ばいに広がり、竹ザオをかまえて突撃し、六月決戦へ戦闘態勢を整えた。このデモで全国学生解放戦線軍団長藤公君が不当にも逮捕された。

関西四千名が決起

五・二九全関西統一行動は午後六時京都円山音楽堂に八〇〇名を結集して圧倒的に闘いとられた。これに先だち午後三時から京大時計台前において全関西学生総決起集会が一二〇〇名の結集をもって闘い抜かれ、集会後京大から円山音楽堂まで官憲の弾圧をはねのけて戦闘的デモを貫徹した。
集会において労学高解放戦線の代表はわがML派の六月決戦への断固たる決意を大衆的に明らかにした。中核派等の六月決戦からの逃亡派は集会の発言においても、六月決戦を具体的にとう闘うのか一切ふれることができず、大衆的非難を浴びた。
集会後だちにデモに移り、円山音楽堂から四条河原町を経て市役所前まで、五名の不当逮捕者を出しながらも終始戦闘的デモンストレーションをくりひろげた。

右翼粉砕して結集—名古屋

五・二九全国統一行動に名古屋

九大（養）はストて決起

福岡、北九州で総決起集会

五・二九全国学生統一行動に対して九大教養部自治会はストライキをもって立ちあがった。二十七日の教養学友大会は反革命集団革マル派を粉砕することを決定するとともに、五・二九闘争を全国学友と連帯したストライキで決起することを決定した。
当日、教養自治会総決起集会をもった教養部学友は全学総決起集会に合流し、闘う意気を示した。
福岡大、西南大、福岡教育大等からの結集をかちとった総決起集会後、米領事館に対する果敢なデモンストレーションをかちとった。
一方、反革命集団革マル派の動員をうけ、当日ようやく八〇名の動員をしただけで、全共闘の闘いに対して、手をこまねいて傍観する以外、「革命的介入」を何一つ行うことができなかった。
北九州においては、北九大全共闘の総決起集会がおこなわれたあと、夕刻小倉民役所前の統一集会が九工大、反戦の参加をもって勝ちとられ、戦闘的デモが闘い抜かれた。
大衆的に排除された革マル派はコソコソと市内デモをやってお茶をにごした。

砂川には千五百 労学市民

砂川基地自衛隊移管阻止闘争は革命派一五〇〇名の結集をもって闘い抜かれた。
午後一時半より反戦広場において集会は開催され、反対同盟からの挨拶、三里塚反対同盟からのあいさつ、諸団体からの発言がおこなわれた。反対同盟はその挨拶の中で、この闘いをアジア人民と連帯した反革命軍事基地撤去の闘いとして押し進め、六月決戦に合流していかなければならないことを明らかにした。
労働者解放戦線代表は、人民総武装六月決戦に決起するよう強く主張し、会休の拍手をまきおこした。
一方、中核派の発言は六月決戦逃亡をおおいかくすための無内容なもので、非難の的となった。
この日の闘争は五月の一切の闘争の成果の上に、六月決戦を闘うものと、逃亡するものを最終的に確認した。

5.31 全国で軍事基地撤去 自衛隊解体闘争

五・三一全国基地撤去闘争は全国各地の革命派の手にになわれて展開された。日米共同声明にもとずく、「日本防衛」、米軍基地自衛隊移管策動を阻止する闘いをかちとり、六月決戦へなだれて進撃した。

一千名が街頭デモ 仙台 東北大(養)一カ月スト突入

仙台における五・二九統一行動は東北大、東北学院大学を先頭とする二〇〇名の学生高校生によって打ち抜かれ、六月決戦に向けた学生戦線における戦闘体制が打ち固めるものであった。
当日午後、東北大片平構内において、インドシナ革命勝利・六月決戦勝利全仙台総決起集会がもたれて、五月二八日より向う二カ月間のストライキに決起した東北大教養を先頭に、東北学院大等の学全共闘、高校生一〇〇名が結集した。
集会後、解放戦線を先頭に、東一番丁→市役所→勾当台公園の市中デモに移り、一〇〇名の部隊は東北大、東北学院大学を先頭とする一

6.14代々木公園を武装出撃拠点に！

六月決戦貫徹にむけた日本ML同盟の主張

安保粉砕・沖縄解放 日帝打倒・アジア革命勝利

（一）日米共同声明粉砕、帝国主義的沖縄処分＝併合粉砕

・日ゾ発進、沖縄からのインドシナ反革命出動阻止！
・米軍基地撤去、自衛隊派兵・基地移管阻止！
・農民に土地を、漁民に漁場をかえせ！
・石油基地建設阻止！
・日本政府の反革命干渉阻止、復帰準備活動中止、復帰協闘委員会粉砕！
・全軍労闘争連帯、解雇撤回！

（二）日米共同声明粉砕、日帝のアジア侵略・反革命粉砕！

・日韓条約粉砕！植民地化阻止！
・朴独裁政権打倒闘争と連帯して闘おう！
・入管体制粉砕！在日被抑圧民族への圧迫・弾圧を許すな！
・大村収容所解体！
・ベトナム・インドシナ革命勝利！用ベトナム解放民族戦線支持！日帝のインドシナ反革命干渉粉砕！
・四・七中朝声明、四・二五インドシナ三国声明支持！
・排外主義愚民扇動政策粉砕！
（三）安保破棄・佐藤
・基地撤去！
・軍需輸送阻止・軍需企業解体！
・四次防粉砕！自衛隊解体・第二
・安保非常体制突破！機動隊機動
・三里塚軍事空港建設粉砕・農地
・砂川基地自衛隊移管阻止！ナイ
・物価・公害・人民の生活破壊反
・合理化・首切り・労働強化粉砕！
・虐殺・処分・ロックアウト粉砕！
・高校生の政治活動弾圧粉砕！高
（四）全国反戦・全国
日米共同声明粉
藤内閣打倒・人
戦線を！

五月街頭宣伝制圧・人民総武装六月

日米帝国主義同

ア国際統一戦線
ベトナムーインドシ
中国・全アジア人民・

プロレタリアーの七〇年代を闘

マルクス・レーニ義の旗の下、日結集せよ

アメリカ帝国主義軍隊のカンボジア反革命介入は、ソンミ村大虐殺や打ち続くベトナム人民殺戮と共に、反革命の狂気と残虐の現われである。日本と全世界人民は憤らに、米帝の反革命軍事介入粉砕、日帝の反革命干渉阻止のために闘争に決起しなければならない。

国際階級闘争の前衛者であったベトナム人民の闘いは今や全インドシナへと拡がり、インドシナ国際統一戦線の建設から「インドシナ革命」へと姿を進めんとしている。

中国と北朝鮮は「中朝声明」により、日米共同声明を糾し非難し、日米帝国主義に対する広汎な人民の断固たる決起を呼びかけた。

インドシナー中国ー朝鮮と、日米帝国主義同盟に対決する国際統一戦線は日々現実化している。

米帝国主義のカンボジア反革命軍事介入、北爆再開、そしてアジア会談の開催という、帝国主義者の策動は、「グアム・ドクトリン」の破産と、人民の革命戦争の前進に対する絶望的焦りによってなされているに他ならない。

ベトナムーインドシナ革命の前進、インドシナ、中国、朝鮮を結ぶアジア国際統一戦線の形成、帝国主義者のアジア反革命戦略の破産と狂乱の如き殺りく、――急速に展開する革命と反革命の激突の中で、我々は六月決戦へ向けて、闘う決意を今一度打固めなければならない。

アジア人民との革命的合流をかちとり「日帝打倒・アジア革命」へ進撃する我々の任務は、日米共同声明を粉砕し、この中で宣言された帝国主義的沖縄処分＝併合に対決し、沖縄解放闘争に勝利し、日本帝国主義のアジア侵略を粉砕してゆくことであり、こうした闘いに百万の大衆を決起せしめることである。

人民総武装六月決戦は、「日米共同声明粉砕・安保破棄・佐藤内閣打倒」のスローガンの下、広汎な大衆を武装実力闘争を堅持する統一戦線へと結集せしめなければならない。

既に社共は敵陣営の中にいる。我が革命派のみが帝国主義者に対決する部隊である。

六七年一〇・八闘争以来我々が切り拓いてきた地平を更に押し上げ、そして、これを百万の大衆の力でなし遂げることこそ十一月決戦に勝利した我々の任務である。

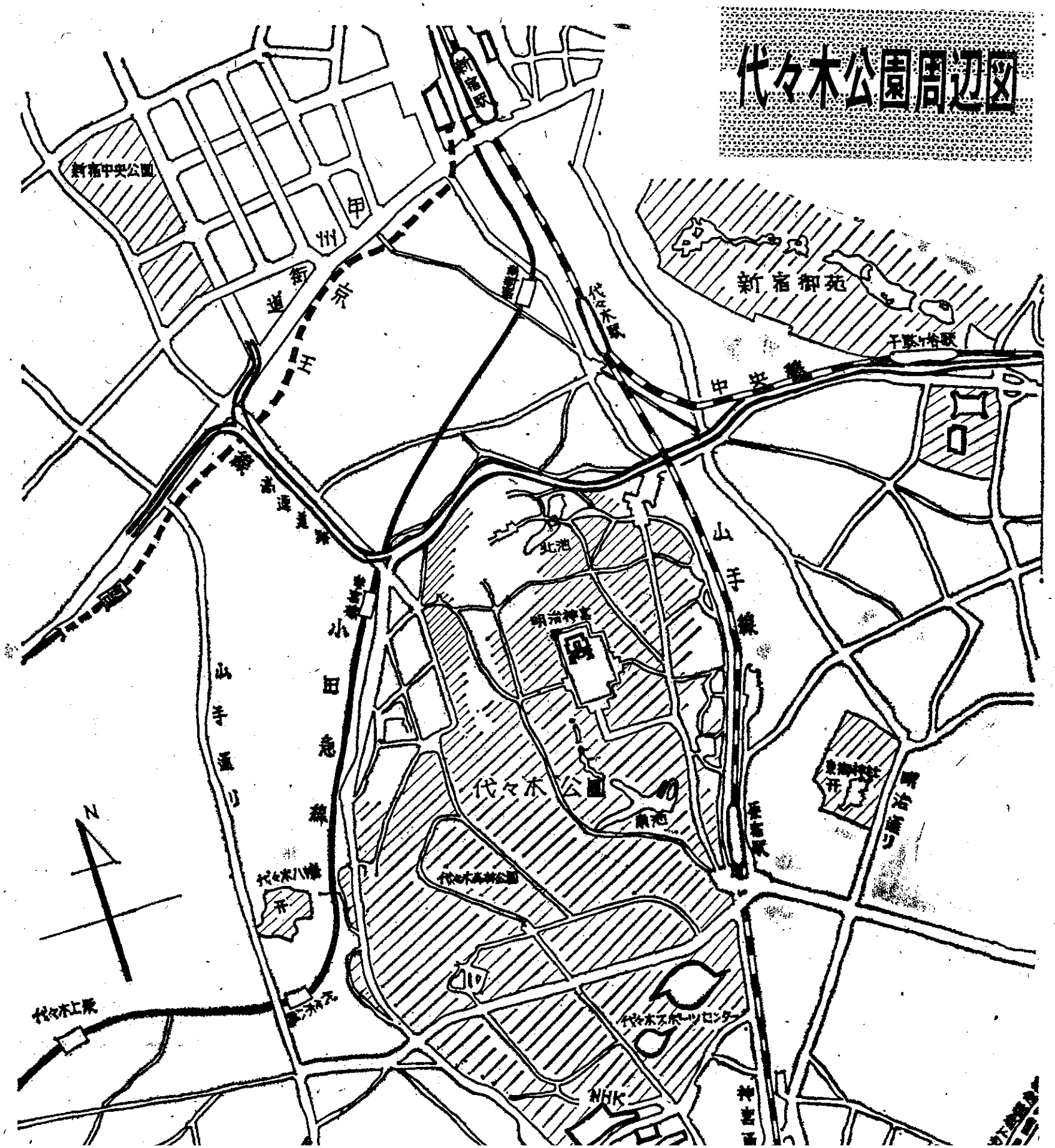
すでに闘いは開始されている。本年初頭からの沖縄全軍労の闘いは、日米帝国主義の反革命戦略構築の軸たる「帝国主義沖縄処分＝併合」の本質をあますところなくあばき出した。アジア人民の激闘は糞真に帝国主義者を窮地に追い込んでいる。

「日帝打倒・アジア革命勝利」の戦略の下、産業報国会の支配・干渉に反対し、アジア人民に向けた侵略・反革命を粉砕し、「安保破棄・佐藤内閣打倒」へ百万の大衆を結集せねばならない。

五月街頭宣伝制圧戦の中で、広汎な大衆を結集せしめ、人民総武装六月決戦を実現せよ。

人民総武装六月決戦、勝利し、万余の大衆の力によるアジア革命への大合流をなし遂げなければならない。

代々木公園周辺図



弾圧粉砕の心得

(一) 労働者階級人民の権力を七〇年代に展望する革命派と、旧支配権力にしがみつく旗陣営とのせめぎあいは、いまさらに熾烈な正念場にさしかかりつつある。日帝を打倒し、アジア革命の勝利を実現するために、日本革命派が果すべき緊要の任務は、十一月決戦の勝利的地平を基礎にもって承継し、発展させることである。自らが描いた革命の現実性を全く信じていないにも拘らず、国家権力に垂直してその圏外に永久に回遊し続ける社・共と、日和見主義の公然たる翻流には、もはや、敵階級との血を血で洗う抗争のこの時代を生抜することはできない。われわれは、日本革命が要求するこの任務に敢然と泥い、いま、一切の飛躍を獲得するために、六月決戦に全組織をかけている。

(二) 勝利・進撃・革命の七〇年代と、内乱期、破防法攻撃は、表裏の関係にある。権力闘争は、敵支配の矛盾であり、だからこそなりふりかまわぬ攻撃がしかけられているのだ。敵弾圧の狂気の拡大は、敵支配の不安と動揺を如実に物語っている。敵弾圧が、革命派人民を鎮圧するか、革命派が強化された反革命を打ち破るか、問題は、このようにせまられており、従って、敵の反革命弾圧との闘いは、革命の勝利に向かって食うか食われるかの争いであり、革命派の大胆な前進によってまますます激しいツバぜりあいとなる。敵弾圧の現象の側面のみをみて、それに怯えるものは、一切の反撃を準備し得ず、また、「冬の時代」の観念のとりこになってしまうのである。革命派人民が能動的に切り拓いてきた階級闘争の地平は、絶対に「冬の時代」を許すものではない。敵弾圧の拡大は、われわれが一層、敵支配の根源にせまり迫っている証明であるとともに、敵の攻撃の激烈さに対し一点恢し、敵に乗せられる余地のないものとしておくことが肝要である。闘いは困難になればなるほど、付随対がきかぬものとなり原則的な活動が、戦士の習性にまで高められているとき、もっとも真価が発揮されるものとなる。「闘争があるから」「ガサがあるから」といった整理の仕方を改め、不必要なものは徹かに残さず身辺をいつも整理し、革命的警戒心で貫くこと。余計なことは書きとめず、知りたがらないこと、自分ひとりに精一杯にならず、自分ひとりを片付けて油断せず、われわれの眼をわれわれの及ぶ限りの範囲にゆきわたらせよう。戦士の下宿や自宅は勿論、学校、サークル部室、事務所の整理に気を配り会議等を使用するにも、前後の点検を忘れないこと。単に、「物」に配慮するだけでなく、余計な「人(犬のことだ!)」を連れて歩いてはいないか、電話で余計なことを話しすぎてはいないか、総点検を実践しよう。

(三) 敵の弾圧、反革命攻撃を粉砕する闘争は、単に、街頭闘争における大衆逮捕方式を打ち破ってゆくことによって果たされるのではない。革命派の闘争が、十一月決戦をへて一層質的に飛躍されている今日、敵にとってもすでに一月決戦をへて一層質的に飛躍されている組織、弾圧は、度を越す。中代々木資のロックアウト、レポルシオン本社を始めとする労働事務所の日常的捜索の強行、また、公安と一体となって各事務所のロックアウトの強行策動等々。大学のバリ破壊から、生活基盤のものの破壊へという意図が本当に担い切ろうとしてしまうことが、大衆的に認められ始めた時期と一致しているではないか!」敵のわが同盟に対する